



プロジェクト名称

空き家改修プロジェクト

プロジェクト活動概要

静岡県東伊豆町における、東海汽船という稲取から大島を結ぶ船のチケット売り場（岬の館）の改修プロジェクトです。事務所だった場所を郷土資料室とし、チケットカウンターを待合所などに地元住民と改修します。観光地の拠点であり、地元住民の居場所をつくります。

プロジェクト終了後に目標とする成果・結果 / その進捗

- ① 1月～3月の運航期間までに郷土資料室や待合室の施工を終わらせ、新たな観光拠点として活用できるようにする。
- ② 設計や運営方法を地域の人々と協力することで、地域住民に根付く場所にする。
- ③ 地域住民が自主的にこの場所を使っていくような空間づくりとシステムづくり。

建物の周辺の草取りから始め、現在は地元の人から譲ってもらった「いらなくなった木箱」から展示棚などを作成しています。施工している現状を地域の人たちに知っていただくために子供達とワークショップを行い、フォトブロック作成やシャッターの塗装をしてもらいました。地域を巻き込みながら活動を続けることで地域住民が自主的にこの場所を使っていく場所を目指しています。

活動状況報告 & 活動写真

活動期間：2016年7月1日～9月30日

今回改修させていただく物件は13年ぶりに航路復活を遂げた東海汽船という船の空き事務所です。今年の運航期間においてはチケットカウンターとして機能していましたが、そこに稲取の郷土資料が学べる待合展示室として改修します。現在までの活動は週一回の会議を行い、月に一度は2～3日ほど訪問し改修作業を行ってきました。月一度開かれる地元の方との「空き家等利活用推進協議会」ではワークショップの計画や設計などを一緒に考えていただきました。



改修前の外観



空き家等利活用推進協議会の様子



【8月4日～8月12日の夏休み長期施工】

夏休みを利用して9日間の長期施工を行いました。今回の施工では待合室の床を海をイメージした青色に塗装しました。また展示室側はタイルを剥がし光沢感のある透明樹脂を塗装しました。展示物は昔、稲取で使われていた漁船具や農具などの郷土資料を考えており、今回はそれらの展示品をいくつかお借りし仮置きして展示室の雰囲気などを検討しました。また外トイレに木ルーバーを設置したり、船の素材を使ったベンチの作成なども行いました。

施工前



施工後



外観写真

待合室床

展示室

木ルーバー

【ワークショップの開催】

8月9日にワークショップを開きました。地元の子供達を始め、ひがしいず日和写真部や稲取高校ボランティア部の方々とフォトブロックの作成を行いました。フォトブロックは思い出の写真を持参していただき、施工の際に出た木材の端材を使って作成しました。また子供達には建物のシャッターの塗装もお手伝いしてもらいました。この日はテレビ静岡や地元テレビのハイキャット、地元の新聞社など多くのメディアにも取り上げられました。子供達を通じてこの場所を広く知っていただき多くの地域の方々に使われるものに改修していきたいと思いました。



フォトブロック作成



シャッター塗装の様子



かき氷の差し入れ



集合写真



今後の活動計画、目標、意気込み

今後は施工作業として天井の作成と展示ケースの作成を残しています。また稲取の農家さんを紹介するフォトブロックを作成したり、郷土資料をお借りし展示品を揃えていきます。来年の船の運航は1月29日からとなるのでそれまでには私たちだけでなくそこを使っていただく人にも満足していただけるような場所を作っていきたいです。2月には完成披露のイベントを企画しており、現在は「空き家等利活用推進協議会」において地元の方々と準備を進めています。



完成イメージ